

ニセフサノリとイロロの学名変更

千 原 光 雄*

M. CHIHARA: *Pseudogloiophloea okamurai* (SETCHELL) comb.
nov. and *Ishige sinicola* (SETCHELL et GARDNER) comb. nov.

1 ニセフサノリ

私は真正紅藻類カギノリ科植物 Bonnemaisoniaceae の分類上の位置を検討する目的で、生活環や嚢果形成の仕事を進めているが、この科と近縁であるとの意見の多いガラガラ科 Chaetangiaceae についても同様な研究を行なう必要性を感じ、まずフサノリ、ニセフサノリを手始めに、ここ数年仕事を進めてきた。詳しい結果は別に報告するとして、ここではニセフサノリの学名の変更について述べる。

ガラガラ科は体制と嚢果の構造の違いから分類上3群、すなわちフサノリ群、ガラガラ群、ウィドベラ群に大別される場合が多い (Kyllin, 1956)。ニセフサノリが属するフサノリ群には4属が知られている。いまそれぞれの特性を挙げると次のようである。

- A. 表皮は透明な嚢状細胞からできている。
 a. 助細胞から発出する造胞糸は1本である……*Scinaia* BIVONA (1822)
 b. 助細胞から発出する造胞糸は2本以上である
 ……*Pseudoscinaia* SETCHELL (1914)
- B. 表皮は透明な嚢状細胞と糸状細胞とがまじってできている
 ……*Pseudogloiophloea* LEVRING (1953)
- C. 表皮は糸状細胞からできている……*Gloiophloea* J. AGARDH (1870)

フサノリ群に所属する本邦産藻類には、フサノリ、ヒラフサノリ、ジュズフサノリ及びニセフサノリが知られている。これらの前3種は *Scinaia* 属、そしてニセフサノリは *Gloiophloea* 属に所属するものであるとされてきた (SETCHELL, 1914; 岡村, 1936)。ところがニセフサノリの所属について問題のあることが LEVRING (1953) の研究によりわかってきた。オーストラリアとニュージーランドの海藻を調べた LEVRING が指摘したところによると、SETCHELL (1914) が記述した *Gloiophloea* 属の定義には誤りがあるというのである。すなわち、J. AGARDH (1870) が *Scinaia* 属から *Gloiophloea* 属を区別して新設した際に新属の基本種とした *Gloiophloea scinaoides* は体の表皮に嚢

*国立科学博物館

The Bulletin of Japanese Society of Phycology, Vol. XVII, No. 1, 1—4, April 1969

状細胞を欠く種類である。この種類の基準標本は HARVEY がオーストラリアの Western Port で採集し、*Scinaia furcellata* (Herb. AGARDH No. 32112) としたものである。ところが SETCHELL はこの基準標本を見なかった。SETCHELL は BERGGREN がニュージーランドで採集し、J. AGARDH が *Scinaia furcellata* と同定して配布した標本を基準にして *Gloiophloea* 属の記述を行なったのである。この標本は体の表皮に嚢状細胞と糸状細胞をもっている。すなわち、SETCHELL が *Gloiophloea scinaoides* と見なしたこの標本は表皮の形態が基準種と全く違ったものであり、*Gloiophloea* 属に所属する植物ではない。そこで LEVRING (1953) は新たにこの植物を基準種とする属 *Pseudogloiophloea* を設立し、この植物に *Pseudogloiophloea berggrenii* LEVRING の学名を与えた。わが国のニセフサノリの体の表皮は、よく知られているように、嚢状細胞と糸状細胞とがまじってできている (第1図)。以上の理由から、ニセフサノリの学名には *Pseudogloiophloea okamurai* (SETCHELL) comb. nov. が用いられるべきである。

2 イロロ

DAWSON (1944, 1954, 1966) は *Polyopes sinicola* SETCHELL et GARDNER をイロロ *Ishige foliacea* OKAMURA の同義語に挙げた。しかし彼はイロロの学名の変更の提唱をしなかった。私はかねてからこのことを不審に思い、1966年夏の太平洋学術会議に出席の予定だと連絡してきた同博士にその理由をたずねたく考えていた。ところが来日を目前にしての DAWSON 博士のエジプトでの不慮の死は私のこの希望の実現を不可能にしてしまった。幸い、私は昨年(1965)の8月 Berkeley のカリフォルニア大学に立寄り、SETCHELL と GARDNER (1924) が記載した *Polyopes sinicola* の Isotype 標本を見る機会を得た。産地 Isla Partid, Gulf of California, 採集者 I. M. JOHNSTON 85, 採集年月日 July 2, 1921 (UC 221137) のラベルをもつ標本は紅藻類の植物ではなく、紛れもなく褐藻類イロロと同一物である。第2図にその体の断面図を示す。外形は日本中部太平洋沿岸に生育するイロロと比較すると、一般にやや小形で、幅の狭い傾向にある。私はさらに DAWSON 博士が1966年4月に Station Beach, Puerto Penasco, Sonora, Mexico で採集し、同博士が *Ishige foliacea* に同定した液漬標本も調べる機会をもった。この標本は外部及び内部形態ともに、さきの SETCHELL と GARDNER の *Polyopes sinicola* の Isotype 標本と本質的には全く同じである。

イロロの学名は *Ishige foliacea* OKAMURA mscr. として1935年に瀬川により記述されている。その翌年(1936)日本海藻誌にイロロ *Ishige foliacea* OKAMURA の記載が日本語で与えられている。一方、SETCHELL と GARDNER による *Polyopes sinicola* の記載は1924年である。よって、国際植物学命名規約に従い、イロロの学名は *Ishige sinicola* (SETCHELL et GARDNER) comb. nov. と変更する必要がある。興味あることに、KYLIN (1956) はこの植物を紅藻類カクレイト科のキントキ属に移し、*Carpopeltis sinicola* (SETCHELL et GARDNER) KYLIN の名を与えている。想像するに KYLIN は標本を見ることなしに、SETCHELL と GARDNER が与えた記載文と図から、体の扁平で

ある特性に基礎をおき、この植物をキントキ属に移したものであろう。

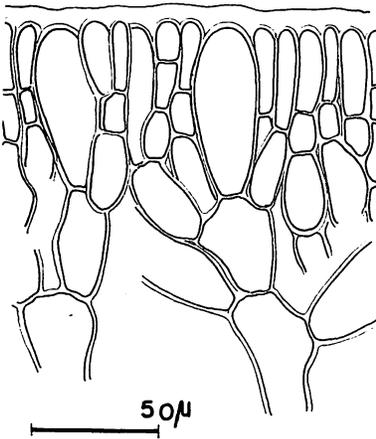


Fig. 1. Longitudinal section of frond of *Pseudogloiophloea okamurae*. The figure was drawn based on the specimen collected at Kisami, Izu Peninsula, on April 30, 1967.

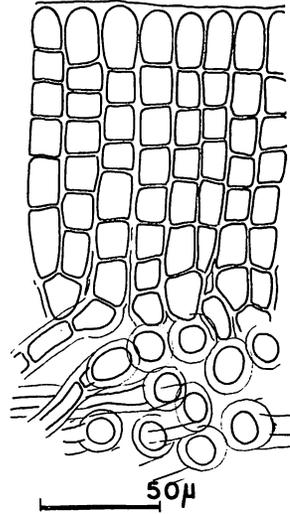


Fig. 2. Transverse section of frond of *Polyopes sinicola*. The figure was drawn based on the isotype specimen collected at Isla Partid, Gulf of California, on July 2, 1921.

標本と文献の調査に際して次の方達に助力をいただいた。G. F. PAPANFUSS 教授、I. A. ABBOTT 博士、P. C. SILVA 博士、M. J. WYNNE 博士及び吉崎誠君。記して謝意を表す。

Summary

The following new combinations are proposed for two marine algae from Japan.

***Pseudogloiophloea okamurae* (SETCHELL) comb. nov.**

Gloiophloea okamurae SETCHELL (1914, p. 115, pl. 15, figs. 50-56; pl. 16, fig. 57); OKAMURA (1936, p. 435, fig. 202).

***Ishige sinicola* (SETCHELL et GARDNER) comb. nov.**

Polyopes sinicola SETCHELL et GARDNER (1924, p. 784, pl. 28, fig. 61, pl. 42b.); DAWSON (1954, p. 267).

Ishige foliacea OKAMURA (1936, p. 239, fig. 130 (1-3, 5); fig. 131); SEGAWA (1935, p. 66; 1956, p. 33, pl. 18, fig. 154); DAWSON (1944, p. 282; 1966, p. 10).

Carpopeltis sinicola (SETCHELL et GARDNER) KYLIN (1956, p. 221).

文 献

- AGARDH, J. (1870) Bidrag till Florideernas systematik. Lunds Univ. Årsskr., T. 8 : p. 29., Lund.
- DAWSON, E. Y. (1944) The marine algae of the Gulf of California. Allan Hancock Pacific Exped. 3 (10) : P. 282.
- (1954) Marine red algae of Pacific Mexico. Pt. 2. Cryptonemiales (Cont.). Allan Hancock Pacific Exped. 17 (2) : 267.
- (1966) Marine algae in the vicinity of Puerto Peñasco Sonora, Mexico. Gulf of California Field Guide Series No. 1, The University of Arizona, P. 10.
- KYLIN, H. (1956) Die Gattungen der Rhodophyceen. p. 119, p. 120, p. 221., Lund.
- LEVRING, T. (1953) The marine algae of Australia I. Rhodophyta : Goniotrichales, Bangiales and Nematiales. Arkiv för Botanik, ser. 2, 2 (6) : pp. 504 & 505.
- OKAMURA, K. (1936) Nippon Kaisoshi. pp. 238 & 435., Tokyo.
- SEGAWA, S. (1935) On the marine algae of Susaki, Prov. Idzu, and its vicinity. Sci. Pap. Inst. Alg. Res. Fac. Sci., Hokkaido Imp. Univ. 1 (1) : p. 66.
- (1956) Coloured Illustrations of the Seaweeds of Japan. p. 33. Osaka.
- SETCHELL, W. A. (1914) The *Sciania* assemblage. Univ. Calif. Publ., Botany. 6 (5) : p. 115.
- SETCHELL, W. A. and GARDNER, N. L. (1924) New marine algae from the Gulf of California. Proc. Calif. Acad. Sci. IV, 12 (29) : p. 784.

大阪府下南部溜池に出現する *Micrasterias* 属

西河 幸雄*・水野 寿彦**

Y. NISHIKAWA and T. MIZUNO: On the *Micrasterias* of ponds
in the Southern Part of Osaka prefecture.

従来, DESMIDS の中でも *Micrasterias* 属は, その形態の美しさと生活環境の特異性から, 興味がひかれ, 数多くの論文が見られる。

筆者らは, 大阪府下にある溜池を調査して来たが, 岸和田市摩湯山古墳周辺の溜池

*堺市立科学教育研究所 Science Educational Institute of Sakai City.

**大阪教育大学 Osaka Kyoiku University

The Bulletin of Japanese Society of Phycology, Vol. XVII, No. 1, 4—10, April 1969